

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103429		
法人名	医療法人 今村		
事業所名	グループホーム桜 うぐいす棟		
所在地	長崎市網場町500-1		
自己評価作成日	令和6年1月11日	評価結果市町村受理日	令和6年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和 6年 3月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム桜は、経営母体が医療法人の為、医療面、看護面でのサービスが充実しており、ご利用者が重度、終末期になられても、ご家族様の希望・要望により、医師・看護・介護が連携を取りながら最期の看取りまで支援させて頂いています。ホーム内では入所者様一人一人生き生きとした生活して頂くよう各棟にて、利用者様に合ったレクリエーションを行っております。又、「一人一人を大切にします」「一人一人に優しく接します」という介護の基本姿勢を心に置き取り組んでいます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは小中学校の通学路沿いに位置し、利用者は普段から子どもたちに「おかえりなさい」等の声を掛けしている。コロナ禍で交流会は中断しているが、学童保育との繋がりは絶えることなく世代間交流に意欲的である。今年度、ユニット毎にテーマ“再生”、“初心に戻る”等を掲げ、支援に取り組んでいる。全体会議は、ホーム長、管理者に職員の意向や提案などを伝えやすい場である。職員が気づいた利用者の変化やヒヤリハットを書きとめる“気づきシート”は、支援内容やケアプランに反映している。職員は、利用者の社会性や自尊心を高めるために運営推進会議への参加を促したり、裁縫や刺繍、写真など趣味をホームでの活動に活かしている。医療面での手厚い支援はもとより、今期はACPについて家族へ向けた勉強会を実施する等、終末期・看取りに関する支援は心強い。理念の具現化の下、本人らしさを重視するホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人一人を大切に、一人一人に優しく接します」の理念に基づき、日々の実践に努めています。ご利用者様が安心して過ごせる様、優しい声掛けと思いやりを意識して支援しています。	全体会議でホームの年度目標“基本の介護を学ぼう”を掲げ、ユニット毎にも年度目標を取り決めており、介護の基礎を学び直す内容となっている。ホーム理念“一人一人を大切に、優しく接します”に沿い、個々の利用者のペースに合わせた支援に徹することで具現化に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、地域との触れ合いは少なかったが、散歩時ですれ違う地域住民の方々と挨拶を交わして出来る限りの交流を行うように意識して取り組んでいました。今後も感染予防しながら交流機会を増やして行きたいと思います。	コロナ禍以前から学童保育の子どもたちと交流しており、現在はメッセージカードが届いている。小学生の下校時に「おかえりなさい」と声掛けし、日々の交流を継続している。職員は地区の清掃活動に参加しており、利用者も数名出掛けている。“桜寺小屋企画”では地域の子ども支援と利用者との交流を新たに構想している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響により、敬老会やクリスマス会は職員と利用者様で行っていたが、今後は感染症の状況次第では再開していきたいと思います。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、二カ月に一回運営推進会議を行っており、民生委員の方や福祉総務課の方の御意見等での情報交換で議事録を作成し、閲覧できるようにしておくことで、サービス向上に活かしています。	コロナ禍のため、感染状況をみながら書面・対面会議を適宜適切に実施し、年6回行っている。利用者の状況や活動内容を報告し、議事録からは各委員からの質問や意見、ホームからの返答内容が確認できる。事故件数推移、ヒヤリハット気づきシートを集計、グラフ化し事故防止やQOL向上に向けて協議している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	二カ月に一回、福祉総務課の方に来て頂いており、その時にケアサービスの取り組みをお伝えし、助言やアドバイスを頂き、協力関係を築いていけるよう取り組んでいる。	市担当課や地域包括支援センターとはホーム長が連絡を取り合っている。年1回、市職員が訪問しており、またマイナンバーカードの取扱いについて市担当者の来所があり説明、助言を得ている。行政から届いた研修案内には、職員がオンラインで受講している。法人本部に届く情報も毎週連携している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成しており、マニュアルに基づいた研修、勉強会を行い、職員の意識向上に努めています。	身体拘束適正化のための指針を整備し玄関にファイルを設置している。身体拘束虐待防止委員会は、各ユニット職員と管理者による構成で、3ヶ月に1度開催している。年2回、全職員が参加する身体拘束・高齢者虐待についての内部研修を実施し、スピーチロック等についても互いに確認し合っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成し、虐待防止法やケアの原則をきちんと念頭においてケアに努めています。利用者様に対する不適切なケアは無いが、全体会議でも話し合っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があれば対応していきたいと思えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学や入所前に口頭で文書面の説明を丁寧に行い、不安や疑問点があれば、納得されるまで対応を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、現況報告書を御家族様に送付しており、現在の状況を今後相談しやすい文面にすることで、ご家族様のご意見が出やすい環境づくりを意識しています。	現在、人数と時間制限の下、面会を行っている。ACPIについての勉強会には、半数の家族が出席している他、花見やクリスマス会には家族も参加している。毎月の便りの他に現状報告書を同封し、行事毎の写真を添えている。姓ではなく名前で呼んでほしいという家族の要望を介護計画に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現在、月に一回の全体会議、ユニット会議を行っており、意見や提案が出来る機会を設けています。	ホーム長は、ユニット会議や職員面談に限らず、普段から職員の意見を聞く機会を設けている。また気づきシートを活用し、職員が自由に表すことができる工夫がある。職員の希望を優先し、希望休やシフト調整を行ったり、職員の意見や思いを各ユニットのスローガンや業務内容、物品購入などに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人が向上心を持てるよう、月一回の内部研修の参加が出来るようにしています。又、各自ご利用者様の担当を数名持つことで、やりがいを持てるよう職場環境を整備しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回の内部研修を行っており、各職員が順番で全体会議の時に発表する機会を設けています。職員は内部研修の発表の為に勉強しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により、同業者との交流は少なかったが、同グループ内の発表会には出来るだけ参加し、サービスの質の向上の取り組みに活かしています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面会する機会を設け、情報を把握し、ご要望に応えられるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と面会し、御家族様の不安な事やご要望を話しやすい環境を意識しながら傾聴し真摯に応えています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況での対応が必要な場合、しっかりと話し合いを行い、対応出来るようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人様が過ごしやすい様、環境に気を配り、無理が無いかしっかり観察しながら対応しております。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と職員で出来る限りの支援が行えるよう、ご家族様にも面会しやすい環境を整えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様との馴染みの関係に十分配慮し、関係が出来るだけ長く保てる様、心掛けていきます。	本人・家族との会話から、生活歴を把握している。職員は、利用者が持参してきた物や季節行事などを話題に会話しながら、これまでの暮らしの情報を引き出している。家族や知人との面会、外出など、馴染みの関係が途切れないよう支援を行っている。ただし、知り得た情報がフェイスシートに連動していない。	職員が、日常的に知り得た一人ひとりの思いや暮らし方の希望や意向が、随時フェイスシート等に現れる仕組み及び工夫に期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護レベルや、性格の一致なども考え、テーブルの位置も考慮し、本人様同士にストレスが無く、楽しく過ごせる環境を意識しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、気軽にホームへ立ち寄って頂けるような環境づくりを意識し、声掛けを行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本的に本人本位を尊重しており、暮らし方の希望や意向に関しては出来る限りの傾聴から応じられるよう努めています。	職員は、利用者との会話から、ホームでの過ごし方を把握し、意向に沿った支援に努めている。夕方に入浴したい、居室で食事をしたいなどの希望に個別に対応している。職員は、知り得た意向をタブレットへの記録や“気づきシート”を活用し情報共有を図っている。趣味の継続や洋服選びなど、利用者の希望に沿った支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご本人様、御家族様から生活歴などを傾聴し、今後の暮らしに役立て、ご本人様が安心して過ごして頂く環境づくりに役立てています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調、身体の状態観察を行い、異常や異変があれば、医師や看護師に報告を行い指示を受けています。体調や身体の状態の変化に素早く気付ける様、努力しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、御家族様の意向に沿えるよう、職員間で今後のケアと課題を話し合い、現状に即した介護計画作成に努めています。	利用開始から1週間は24時間シートで状態を把握し、その後暫定1ヶ月プランを立て、本プランに移行している。面会時や電話にて家族の希望を聞き取り、同意を得ている。今年度タブレット導入によりケアの統一を図っている他、ヒヤリハット気づきシートから介護計画に繋がる事例もある。実施記録から計画の実践状況が確認できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、ご利用者様の状況を職員が把握し、ケアを実施してから、その後のカンファレンスで様子や気づきを話し合い、変化があればタブレット端末で情報共有を行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の買い物やご要望があれば、速やかに対応出来るよう心掛けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の役員の方と最低限の情報交換を行い、コミュニケーションを図っています。又、散歩や買物等で積極的に近隣へ出掛けています。近所の方にも声を掛けて頂く機会も増えてきています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には経過や生活の様子などの情報を提供し、医師からは生活上の注意事項の指示を受け、ご利用者様が適切な医療を受けられ、健康管理や異常の早期発見が出来るように連携に努めています。	母体法人の病院受診時は病院送迎車にて通院している。また、月2回の往診を受けている。これまでのかかりつけ医や他科受診等、母体法人以外の通院は家族が対応しており、必要時は看護職員も同行している。受診内容は家族と共有している。夜間緊急時等も主治医と連携し、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がホームに配置されており、勤務外では訪問看護の連携を行いながら、病状の管理や状態変化にも対応しています。タブレットにも利用者様の情報、気づきを記録し、伝達、相談を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に必要、適切な情報共有に努めています。病院関係者様からの状況経過も定期的に聞き、情報共有しながら退院後も適切なケアに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご利用者様、御家族様のご意向を確認し、その後も必要時には話し合いを密に行い、再確認しています。又、重度化した場合は早い段階でご家族様、主治医との話し合いを行っています。	これまで多くの看取り支援を行っている。利用開始時に重度化、看取りについて家族と指針を共有し、急変時意思確認書を交わしている。状況変化に応じ、医師を交えた意向の再聴取や説明により、家族の同意を得ている。職員は看取りの内部研修で理解を深めている他、今年度家族に向けてACP勉強会を開催している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に備え、看護師指導の下、応急手当や初期対応の指導を受けています。分からない事があれば質問し、実践力向上に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎月、防災についての内部研修を全体会議で行っています。火災を防ぐため、コンセント周りの埃などが無いかの定期点検を行っています。	毎月火災時の避難訓練を実施し、コロナ禍で今年度は消防署立会いはなく、今後は年1回実施予定である。法人の安全委員会で災害対策を検討している。BCP策定後は、職員への周知を図り、計画に基づく訓練を実施していく予定である。この地域は液状化リスクが想定されているが具体的な避難の方策は未だ確立していない。	事業所の立地や構造上の課題を基に、地域と連携して避難場所を選定し、搬出訓練を行うなど、具体的な災害対策の実施を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の管理は周知、徹底しており、職員の入社時には守秘義務の契約書の提出をして頂いています。	人格を尊重した声のかけ方等を検討し、実行している。居室入口のドアの開閉、カーテンの設置等も本人や家族と話し合い、決めている。契約時に個人情報保護に関する方針を説明し、同意を得ている。また、肖像権等に関わる同意を別文書で確認し、個人情報文書は各ユニットの事務所で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中から利用者様の思いや希望が聴けたら汲み取り、皆職員が共通して同じ支援が出来るように情報共有を行っている。会話が難し方でも表情から思いに寄り添いながら受け止めれるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを大切にし、覚醒時に伸び伸びと生活出来るよう支援しています。傾眠見られれば自室にてゆっくり休んで頂くよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を第一に心掛け、本人様の嗜好、習慣を尊重しながらお洒落して頂いています。古くなってきた衣類があれば、ご家族様と相談し、出来る範囲内で新調のご提案を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片づけは現在利用者様に手伝って頂いてませんが、一人一人の好みを把握し、食べれないものがあれば、ご家族様の協力の元、捕食を提供しています。	母体法人の配食サービスを利用している。炊飯、刻みやとろみ等はホームで行っている。日曜日はパン食であり、利用者は牛乳やヨーグルト、ヤクルトから選んでいる。季節毎の献立に添えられた飾り物を部屋に飾っている利用者もいる。主食だけ摂取する利用者は家族と相談の上、好みのおかずを準備することも検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、水分量を記載し、水分が不足している時、食欲がない時は好みのものを提供し支援しています。又、個々の状態に応じて食事形態も変更しながら対応しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施しています。状態に変化あれば歯科往診時に相談し、対応しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様に合ったオムツ等の検討を行い、時間を見ながらトイレ誘導を行っています。	職員は業者による研修を受け、尿漏れを防ぐパッドの使用方法や衛生的な洗浄方法を学び、排泄介助に活かしている。ユニット会議で、見守りや声掛け、パッド類の使用検討を個別に検討している。職員は、利用者が可能な限り自立に近い排泄ができるようトイレやポータブルトイレの支援内容を検討し実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	タブレット端末に排便を入力し、活用しています。水分などもチェックし、飲まれない方には嗜好の飲み物を提供しています。便秘時には医師や看護師に相談し、指示を受けて対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴に努めています。体調不良の方は清拭にて対応しています。拒否がある場合は時間をずらしたり、日にちを変更し、入浴して頂いています。湯の温度は何度も確認し、微調整しながら行っています。	毎日入浴を準備し、週2回を目安に入浴支援を行っている。入浴時間は午前中が主であり、本人の意向に沿って、午後や夕方に支援することもある。拒否する場合は別日など無理強いせずに対応している。職員は、利用者が気持ちよく入浴できるよう、希望の湯温や季節湯、会話を楽しむなど個々に工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状態を確認し、傾眠気味の方は居室ベッドへ誘導し休んで頂いています。夜間は夜用のパットを使用し、交換回数を減らすことで睡眠の妨げにならないよう支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は日付、名前、何時かをスタッフ二人で確認し、服用時も名前と顔を確認し行っています。誤薬が無いよう注意し、新しい薬の時には状態観察を気掛けて、変化などがあれば看護師に報告を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年内行事などを計画し、季節を感じて頂いたり、レクや散歩、外気浴等で気分転換になるよう支援しております。一人一人、好きな事が出来るよう支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響により、花見や秋祭り等、大人数での外出は控えております。状況を見て今後は外出の機会を検討しています。病院受診や近所での買い物や散歩などは予防対策を取り、支援しています。	現在は、全員での外出は自粛しているものの、利用者の体調に配慮しながら、個別にホーム周辺の散歩を増やすなど支援している。また、散歩が難しい利用者は外気浴を行うなど、戸外の空気に当たるよう工夫している。家族と法事や墓参りなどの外出も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金をホームにて管理し、個別ノートに記入しております。又、その都度必要に応じ買い物などの支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様に合った対応を心掛けています。電話、手紙などご希望があれば携帯電話の使用の支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけや行事の写真、花を飾る手作りカレンダーなど、季節感を感じて頂く工夫をしています。居室の湿度、換気、整理整頓にも配慮し行っています。	玄関からリビングルームに続く空間に、理念やユニットの目標、職員紹介の他、行事の写真や利用者制作の作品、季節の飾りを施し、温かい家庭的な雰囲気がある。調度類の配置は、利用者が無理なく活動できるよう工夫している。職員は換気や温度調節、清掃を行い、環境整備に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にDVD、テレビを視聴できる環境を整え、ソファや椅子を置いて楽しんで頂ける様にしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には十分なスペースを確保しており、本人様の使い慣れた物や好きな物をお持ちになられ、居心地よく過ごして頂ける工夫をしています。	居室内には、テレビや化粧道具の他、枕元に時計や携帯電話、手持ちバッグを置き、自宅同様の暮らしを支援している。掲示物を貼る位置や雑誌の置き場所は利用者の意向に沿っている。ただし、安心・安全に配慮の転倒防止マットや一部壁紙の経年劣化など快適な空間づくりにおいては課題がある。	居室は、利用者が長年過ごすことで、経年劣化はあり得ることであるが、利用者が居心地よく、安心して過ごすことができる空間としての工夫を検討することを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様がしたい事は出来るように支援しています。ホーム内は安心して生活が送れるよう、余計な物は置かない等、配慮しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103429		
法人名	医療法人 今村		
事業所名	グループホーム桜 ひばり棟		
所在地	長崎市網場町500-1		
自己評価作成日	令和 6 年 1 月 25 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム桜は、経営母体が医療法人の為、医療面・看護面でのサービスが充実しており、ご利用者様が重度、週末期になられても、ご家族様の希望・要望により医師・看護・介護が連携を取りながら再起の看取りまで支援させて頂いています。ホーム内では、入所者様一人一人生き生きとした生活をして頂く様、各棟にて、利用者様に合ったレクリエーションを行っております。又『一人一人を大切にします』『一人一人に優しく接します』という介護の基本姿勢を心に置き、取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解し、チーム一丸となり、実践出来るようにします。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍も落ち着き積極的に、交流を深めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の散歩や挨拶をすることで、認知症の理解を活かしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス向上を図る為、地域の民生委員、福祉総務課の方、家族も参加し質疑応答意見交換を行っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福祉総務課、生活福祉課とわからない点は、電話にて相談しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会等を、定期的に学び、防止に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成し虐待禁止法ケア原則を念頭に置き努めています。2か月に1回の話し合いを実施しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	プライバシー保護、職員倫理、内部研修の実施が必要とされる方がおられた場合、活用出来るよう、支援を行います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学、入所の際、十分な説明を行っています。疑問等あればその都度対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者様、ご家族様に耳を傾け、積極的に関わるようにし、要望、意見を気兼ねなく言える関係を築けるよう心がけています。コロナ禍以外は家族の面会を実施しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット会議にて、各自の意見や発表を設け、反映できるよう努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修の必要等は必要に応じて参加できるように努めます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケア全体のスキルアップに努め、内部・外部研修に参加し、報告会を実施しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループ内にて勉強会等を開き、意見交換を行う事で交流する機会を設けています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様の状態に応じ、必要な限りの思いや、希望を引き出せるよう支援し、言葉を発する事が出来ない方は、表情等を観察し、心の声を思い、くみ取るよう、努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時、ご家族様の希望や疑問点等伺い、その時に利用者様の様子等をナースも交えお伝えしコミュニケーションを図り、より良い関係を築けるよう努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様やご家族の気持ちを、しっかりと受け止めその際に必要な支援サービスを見極めるよう努力しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	トレー拭きや洗濯たたみを一緒に行ったり、お互いに支え合っていると実感出来る関係を築き人生の先輩として接しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時ご家族様の希望や、不安に思われている事等伺い、その際ご利用者様の様子等を、お伝えしコミュニケーションを図りより良い関係を築けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様の馴染みの関係を考慮し、日常的に気兼ねなく行き来できるよう支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の際、座られる位置を工夫しより良い関係が築けるよう支援しています。利用者様同士、上手く関わりが出来るようレクリエーション(各棟)等支え合う関係が築けるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終わっても気軽に来て頂けるよう、お会いしたい時等には、お声をかけさせてもらっており、ご家族様にも気軽にお話して頂けるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人お一人、言動や表情より思いをくみ取り、その方の希望や意向に添えるように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、家族と話しをする事で生活歴や、馴染みの暮らし方等を理解した上で職員同士情報を共有し、安心、安全に生活して頂けるよう努めます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、異常の早期発見に努め、医師、看護師に相談、指示を受けています。その方らしい一日を過ごして頂けるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様、ご家族様の移行を聞き、各専門職や関係者と連携を取りあっています。介護計画書を作成し、その内容に沿ったケアに努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日実践項目に対して記録を行い定期的に、又必要に応じてカンファレンスを行い情報の優先計画の見直しに活かしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院、散髪、面会等、本人様の要望に応えるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	インフルエンザ、コロナの為実施できず、落ち着き次第支援します。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に定期的に受診しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態や夜間もしっかり観察し、看護師と連携し支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先と情報交換し、早期退院できる様努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向け看取り内部研修を行い、十分な看取りを行える様、主治医の助言と看護のサポートを受けながら看取りケアに取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故対応時のマニュアルがあり、定期的に勉強会も行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回の避難訓練と毎月ミーティング時に消防訓練を実施し記録を行います。緊急時の対応の連絡網を作成し、協力体制を整えています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護法厳守についてご家族様の同意書を作成し、職員は厳守しています。又言葉遣いや態度に注意しプライバシー保護に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の状態に応じ、出来る限り希望や声を引き出せるように支援し言葉を発する事ができない方も表情等を観察し思いをくみ取れる様支援します。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の言葉に耳を傾け、出来る限りの希望に添えるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容師の方に来て頂き、ご利用者様の身だしなみにを行っています。その際は、ご家族様の承諾を頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様が出来る範囲で無理のない程度のお手伝いをお願いしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、飲水の摂取記録を行い、ご利用者様の状態に合った食事形態で対応し、嗜好にも対応しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、保清に努めています。月2回の歯科往診にて、異常があれば対応して頂いています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し日中はトイレ誘導、夜間は尿量に合わせて、オムツ対応としています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給やテク度に身体を動かす等行い、ナースと連携のもと、便秘の予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望に合わせ入浴は週2回実施しています。できない時は清拭、更衣を行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じた安眠の確保に努めています。寝具、照明の明るさにも注意しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時、名前、日付、朝、昼、夜、の呼称を必ず2人で行い誤薬に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションやDVD、カラオケにて楽しんで頂き、外気浴や散歩等で気分転換をしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の協力もあり外出されたりお天気が良い日は散歩へお連れしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々にお預かりし、管理しています。本人様の希望がある時は代行して購入します。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望の際、その都度対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りにて、季節感を感じて頂いています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お好きな場所で過ごして頂き、利用者様同士の交流も行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物をお持ち頂き、居心地よく過ごして頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事、分かる事を活かしご本人様のペースに合わせたケアに努めています。安心、安全な環境整備を心がけています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103429		
法人名	医療法人 今村		
事業所名	グループホーム桜 めじろ棟		
所在地	長崎市網場町500-1		
自己評価作成日	令和6年1月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和 年 月 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム桜は、経営母体が医療法人の為、医療面・看護面でのサービスが充実しており、ご利用者様が重度、終末期になられても、ご家族様の希望・要望により医師・看護・介護が連携を取りながら最期の看取りまで支援させて頂いています。ホーム内では、入所者様一人一人生き生きとした生活して頂くよう各棟にて、利用者様に合ったレクリエーションを行っております。又「一人一人を大切にします」「一人一人に優しく接します」という介護の基本姿勢を心に置き取り組んでいます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で理念を共有し目に見える所に掲示し朝からの申し送り時に声に出し確認することで実践に繋がっています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナやインフルエンザの感染もあり交流はここのところ出来ていませんが今も学童の子供たちより心温まるメッセージを頂いています。これからも状況に応じて交流ができればと思っています		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため地域との交流が出来ていない。今後は状況をみて交流が出来ればと思っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回の開催となっているがコロナやインフルエンザの感染状況に応じて開催している。開催出来ない時は書面での現況報告等により連絡を取り書面にて助言、質疑応答を頂くなどサービスの向上に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事があった場合は市町村担当に連絡を取りアドバイスを頂いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行い職員間で共有し身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修として虐待防止について学んでいます。不適切ケアなどの気づきノートも使って日頃から意識を持ってケアしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	めじろ棟では1名の方が成年後見制度を利用されており不明な事がある場合はお尋ねさせて頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学、入所の際には十分な説明を行い、又書類でも説明を行い疑問点などはその都度対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で看取りとACPの勉強会を実施しました。意見箱を設置してます。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体会議、ユニット会議を開催しています。コロナ感染流行時は書面にて行い、内部研修も行い意見、情報を共有しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修の案内など共有のBANDで見やすいようにしています。中堅者研修も積極的にに行い勤務調整も行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修などはスキルアップの為にを行っています。内部研修ではインターネットの動画をみて共有しレポートで報告書を出しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、オンラインでの勉強会に参加する事でサービスの質を向上の取り組みを行いました。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初めての環境で不安な思いで来られていると思うのでご本人の気持ちにまずは寄り添い不安なことはないかなど話をする事で信頼関係を築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様やご家族様の思いをしっかりと受け止めその時々に応じた必要なサービスを見極めるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずはその方がどんな方なのか、何か好きなのかなか等、ご本人やご家族と話をすることで情報収集しどのようなサービスが必要なのかを見極めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の気持ち、思いを第一に考えまずは信頼関係を築く事で何でも話せる関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と信頼感を持って話せるような関係作りを心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の馴染みの関係を考慮し出来るだけ行き来ができるように努めていきます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の良好な関係を築けるのも介護者の役割です。レクリエーション等で関わる機会を提供し、家族様とも交流を深めていけるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも気軽に色々相談をしてもらえるような環境、関係性を築けるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でお一人お一人と話をしご希望や意向をお尋ねし思いを尊重し、困難な場合は表情等を観察し意向を汲み取るよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族様と情報交換で情報収集を行いこれまでの情報を共有を行いサービス利用の経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定や健康チェックを行いいつもと違う様子が見られた際には直ぐにナースへ報告し異常の早期発見、対応に努めています。利用者様の有する能力で出来ることを増やす為に現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の担当者は利用者様とご家族様の意向を聞き、担当者会議で意向を伝え記録にも残しています。情報交換しながら各専門職、関係者と連携をとり介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいて日常の様子実践結果、気づき等、ケアプラン実施表に記録、iPad入力し職員間で日々の情報交換しながらケアプランの見直しなどに活用しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナやインフルエンザ流行に伴い電話にて現在の報告や毎月お便りにて利用者様の現状報告を行っています。通院は出来ているが、買い物散歩はコロナやインフルエンザ流行に伴い殆ど実施できていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園掃除など地域の行事に参加し地域との繋がりを大切にしていきながら利用者様にも楽しんで頂けるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人様、ご家族様の要望を聞いて以前からのかかりつけ医療機関や医師との連携を取りながら継続して行っています。母体法人のたちばなベイクリニックメインで行っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは毎朝タブレット申し送りなどにて報告、伝達、相談し指示受け対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者との情報共有、交換、相談を行いながら早期に退院できるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合対応方針や看取りケアについて早い段階に家族様の意向を聞き説明をしています。心身状態の変化に応じて看取りケアにて対応しています。家族様への看取りケア勉強会も行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故時の対応マニュアルがあります。定期的に勉強会を行っています。ヒヤリハット、事故事例のプリント回覧し対応の仕方など学んでいます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	避難訓練等には、特に新人職員には参加してもらい実践を行っています。全体会議の際には、消防委員による勉強会を行っています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護法について、家族様の同意書を作成しています。職員は尊厳の意をもって接し言葉遣いや態度に配慮しプライバシー保護に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り利用者様の個々の状態、状況に応じたり、ご意向をお尋ねするなどして支援しています。スタッフの入れかわりや退職者もありゆっくり関わりが出来ない時もあるが出来るだけ自己決定できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り利用者様の要望、希望に添えるように意向を尋ねたりご本人様のペースに合わせ支援できるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	3ヶ月に一回訪問美容師の方に訪問して頂いてます。誕生日や行事など洋服のお洒落などして頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しんで頂けるように利用者様にあう食事形態にて召し上がって頂いています。母の日、敬老の日、クリスマスには吉宗の茶碗蒸しセットを食して頂きました。ホームの食事を食べれない方には職員が買い物で準備し提供しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量などを把握し、看護とも連携をとり、栄養、バランスを考え提供しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎回食後には口腔ケアを行っています。自力の方への仕上げ磨きも行っています。歯科往診へ来て頂いています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり日々の排泄をタブレットに記録し排泄のパターンの把握、トイレ誘導を行っています。排泄委員や担当者が主になり支援内容(パット類等)を検討しながら利用者様に良い方法を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄、食事量、水分量を活用し個々の排泄パターンの管理チェックを行っています。排泄状態や便秘時には看護へ報告し医師への相談指示受けを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本曜日を決め入浴支援しています。利用者様の状態により変更しながら行っています。入浴剤を使ったり季節では柚子湯や菖蒲湯も楽しんで頂いています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間にぐっすり眠れるように日中の活動を充実したり安眠できるように夜間用のパットを使用したり体位交換が必要な方は2時間おきに体交を行ったりポジショニングを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者様がどのような薬を服薬されているか年頭におき服薬介助に努めています。薬ボックスに管理しセッティング時セッティング後服薬前に二人確認呼称し服薬と最善の注意をはらい誤薬しないように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	トレー拭き、洗濯物たたみ、新聞折りなど役割を持ってお手伝いして頂き皆さんと一緒に体操やTV(ユーチューブ)を楽しんで頂き、洋裁、パズル、計算など一人ひとりが得意、好きな事を行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出支援はできていない。誕生日にスタッフと外食に出掛けたり、家族様と外出された方はいました。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理は個別にお預かりノートに記載し出し入れは管理者が行っています。月初めにご家族様へ出納帳を送って確認してもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月の現況報告にて写真を貼付したり家族様へ電話や買い物支援などお願いし交流ができるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は季節毎、行事毎の飾り付けを行っています。写真を掲載したり会話へのつながりとなっています。毎日の掃除、換気共有部分の除菌にも心掛けています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では気の合う利用者同士を同じテーブルに座って頂いています。テレビやカラオケを観たり雑誌やパズルをしたり好きなように過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物、使い慣れた物を置き安心して過ごせるようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人一人に合った自立支援のケアを行っています。安全な環境作りを常に心掛けています。居室には必要に応じてウレタンマットを敷いています。		